

《前橋女子高等学校 イギリス研修 Day8 (3月15日) 報告書》

ケンブリッジの最終日も、穏やかな天気を迎えられスタートいたしました。最終日くらいのんびり、と行かないのが前女イギリス研修です。朝から生徒たちは大忙し。この1週間で仲良くなった留学生と話し込んだり、写真を撮ったり、連絡先を交換したり、最後の時間を余すことなく使っていました。

授業の最後には先生から修了書が渡され、仲間たちともお別れを。そして、カフェテリアでの最後のランチです。確実に食べたいものを、食べたい分だけ頼めるようになっていました。

ディレクターのTimにカフェテリアで会い、お礼を伝えた後、彼が思い出したように戻ってきて、こう言いました。「往々にして日本人は知識があるが話せないと言ったが、彼女たちは全く違った。クラス内での貢献が実に素晴らしかったとクラスティーチャーたちと今朝話していたよ。」前言撤回だそうです。Timの「日本人像」を見事に覆してくれましたね。Timも嬉しそうに話していました。今後イギリスに来る後輩たちのハードルをぐっと上げてくれたようです。

慌ただしいランチを終えると、そのまま午後の会場である **Cambridge Central Library** に向かいます。到着するとすでにメンターたちが待ち構えていました。メンターとともに今回プログラムを進行するファシリテーターの **Benjamine** も合流し、昨日と同じグループに分かれ、セッションがスタートしました。

昨日の日記には多くの生徒たちが、「ディスカッションと聞いて構えていたが、楽しくあっという間の2時間だった」と書いていましたが、今日は冒頭から少し空気が異なります。昨日のような和やかな会話が続くと思いきや、与えられたタスクは「桃太郎」の物語を順を追って説明し、結末のその後を考えると。まずそもそも「桃太郎」がどんなストーリーだったのか各チーム大苦戦(!?)、四苦八苦しながらも **Storytelling** と言って、効果的な話の進め方について学びました。その後、テーマが与えられ、賛成/反対いずれかの立場で、その正当性を主張する物語を作るよう指示が出ます。テーマは「遺伝子操作について」「死刑制度について」「マリファナの合法化について」など、それ自体が難儀なものでありますが、グループ毎にシナリオ作りに励みました。

4時過ぎによりやくブレイクとなり、昨日とは比にならない程消耗した顔で、教室から出てくる生徒たち。休み時間もグループ内で継続してプロジェクトを続ける生徒もいれば、気分転換にと買い物に出掛ける生徒もありました。そして「難しいけれど、楽しい」の声も。

休憩後の後半は、効果的なスピーチのテクニックを学びます。記憶に残るスピーチには、6つの技法が取り入れられているとのこと。ここで **Benjamine** から追加のお題が。この6つの技法を、今回のプレゼンに入れるようにとのこと。絵に描いたような英国紳士の **Benjamine**、なかなかの鬼でした。

それでも生徒たちは必死にくらいついていきました。時間の関係で全グループ発表とはいかなかったのですが、メンターのサポートも得ながら、チームで発表できるころまでに仕上げてきたのは、今回の研修の一つの成果だと思います。しかも4時間という長丁場を乗り切った生徒たちの疲労だけではなく、満ち足りた表情が印象的でした。発表できなかったチームからは、「私たちにも機会が欲しい」との声が。やりましょう！ロンドンで。

2日間献身的にサポートしてくれたメンターたちとの別れを惜しみ、帰路につきました。彼らとの出会いも、大きな財産となるのではないのでしょうか。今後カレッジの後輩になる生徒も出てくるかもしれません。

いよいよファミリーと過ごす最後の夜です。Thank you カードを準備している生徒も多いようで、感謝の気持ちを伝えるとともに、更に今夜思い出の上乗せをしてほしいと思います。

2日間頑張っ青空をキープしてくれていましたが、帰宅時に何の前触れもなく、突然の大雨に見舞われました。油断した。でも、これも含めてイギリスらしい夜になりました。

【クラス写真】



【ケンブリッジ生とのセッション Part2】

